



月と共に耕す樹洞食卓

支亞干集落にて、Uターンした青年たちと一緒に、伝統と革新の視点を学びながら、この土地とここにいる命に恥じない食生活を作る。その中には、耕吧天光(自家栽培サラダ)、咖哩火雞(カレーチキン)、愛的豬肉轉圈圈(焼き豚肉)などのメニューがある。これらはただの食事だけではなく、作り手の日記でも、がむしゃら頑張る記録でもある。



「走読」で集落の日々を体験

「走読(ズオドゥ)」とは現地を周ることにより、その土地を知ることである。走読を通して、集落の住民になる気分で田んぼや口琴スタジオや雑貨屋などを周り、今どきの先住民集落の雰囲気味わう。もしくは森に入り、支亞干が有する豊かな山林資源を眺め、開拓時代の祖先の物語に耳を傾ける。この土地に実際に立つことにより、ご自身の足で山と平地の間に行き来する住民たちの日々を体験できる。

ここには土地の他に、竹も人も欠かせない

竹筒飯(ちくとうはん)とは先住民の祭りによくある米料理。竹筒飯を作るためには、土地だけではなく、竹林も欠かせない。更に竹の育て方などの知識もなくてはならない。竹筒飯を通して、桂竹とタロコ族の緊密な関係を学べる。竹筒飯を作るのには、竹の選別と切断から始まり、続いてバナナの葉を煮込む。みんなで協力して、ご飯を作って食べることはとても楽しい。



母語を話し、伝統歌謡を歌う

山の中に発源したタロコ族の伝統歌謡はほとんど一人で歌う「独唱」、あるいは反響を表現するための「疊唱」だ。タロコ人の母語、タロコ語にはタロコ人の生活の軌跡が載せてある。タロコ語を話す人がいるからこそ、タロコの伝統歌謡は継がれる。このツアーでは竹林の中でタロコの歌謡と一緒に歌って、雑貨屋さんでタロコ語のゲームをし、言語を通してこの集落に対する理解を深める。



三石灶で火起こし

タロコ族の文化において、「火起こし」はただの生活スキルだけにとどまらず、特別な意義を持つ。タロコ人が使う窯は三石灶という「家庭」を象徴する石窯だ。三石灶で火を起こすことは家族が繁盛することを意味する。タロコ人と共に竹林の中で薪を拾い、火起こしの知識を学ぼう。タロコ人によると、火をうまく起こせない場合、積み重なった薪に歌を歌えば、火は歌声と共に燃え上がるそうだ。



Qmpahプロジェクトの若者の夢

Qmpahとは、タロコ語で「働く、労働」の意味を表す。去年から、Uターンした青年たちが「心的工寮」という場所を拠点としてプロジェクトを始めた。「心的工寮」に元々ある伝統的な竹の建物にリノベーションが施された。今年はさらにQmpahプロジェクトを立ち上げ、農業・飲食・織物・弓術などの文化財をピックアップして、タロコ族の伝統的な生活を体験させる。竹建物のリノベーションについての話もここで聞ける。

コース案内

プラン

月と共に耕す樹洞食卓 日帰りツアー

心的工寮 → 集落にて走読 → 竹筒飯 → タロコ語と伝統歌謡を学ぶ・三石灶で火起こし → 月と共に耕す樹洞食卓

6人からの団体様を受け付けております
最大30人まで。

交通のご案内



お車でお越しの方

台9線 → 壽豊郷中山一路 → 豊平橋 → 西林路



公共交通機関でお越しの方

- 台北から:
台北駅 → 壽豊・鳳林駅 → タクシー利用
- 雄から:
高雄駅 → 壽豊・鳳林駅 → タクシー利用

お問合せ先

阿改玩生活有限公司
黃心慈 0963-507-820
花蓮縣萬榮鄉西林村9鄰162-1號
12日前までにご予約ください。



アクセス



サイトのリンク



交通部觀光署花東縱谷國家風景區管理處
East Longitudinal Valley National Scenic Area Headquarters, Tourism Administration, MOTC

廣告